



県議会を傍聴された皆さんに県議会報告を行いました



今年も敬老の日に健康と長寿を祝って挨拶しました



城南区の体育館で開催されたイベントで挨拶しました



学生インターン生の政策発表会に参加しました



南片江フェスタでモンゴルの子供達に再会しました



知事室を若い世代の皆さんと訪問しました



福岡県酒類鑑評会表彰式に知事と共に参加



在福岡米国首席領事の表敬訪問を受けました



糸島市で農福連携の現状を学びました



安心安全まちづくりの会合でグラスサイダーと共に



障害者差別解消法について意見交換を行いました



街と2級河川の清掃活動にインターン生等と参加しました

県政報告

福岡県議会議員(福岡市城南区)

もりやまさ と 守谷正人



県地域の声を活かす!

MORIYA REPORT

2016 Vol.31

9月定例県議会報告

9月定例県議会は、9月14日から22日間の日程で開催され、10月5日に閉会しました。

今議会では、補正予算1件、条例7件、専決処分1件、契約6件、経費負担6件、人事2件、その他3件の合計26本の議案が提出されました。

補正予算は①防災減災・災害復旧、②地域活性化に重点的に取り組むとして、40億5千万円が計上されました。その主なものは、緊急輸送道路の整備、橋梁の老朽化対策工事等の事業費として25億1,487万円、河川の護岸、砂防ダムの整備などの洪水被害・土砂災害防止の推進事業費7億2,268万円、国際スポーツ大会のキャンプ地誘致の推進事業費1,754万円などです。

意見書として「次期介護保険制度改正における福祉用具、住宅改修の見直しに関する意見書」など5本が採択され、閉会しました。



議会最終日 委員長報告を行いました

常任委員会委員長として

◆ リオデジャネイロ五輪の競泳男子200mバタフライで銀メダルに輝いた柳川市出身の坂井聖人選手(21)は9月13日、県庁で開催された報告会に出席頂きました。

同じくリオデジャネイロパラリンピック陸上競技女子マラソンにおいて銀メダルを獲得した太宰府市出身の道下美里選手(39)も10月5日に県庁にお越し頂きました。

私もスポーツを所管する常任委員会の委員長として祝福しました。尚、両選手とも県民スポーツ栄誉賞を受賞されました。



柳川市出身の坂井聖人選手と共に

◆ 直方市で行われた「第24回ふくおか県民文化祭」の開会式で県議会を代表してご挨拶させて頂きました。

子供から大人まであらゆる世代の方が県内各地で多様な文化に気軽に触れられるイベントです。今後とも文化芸術活動の活性化により文化を受け継ぎ、創り上げ、更に豊かな地域づくりが進むことを願ってご挨拶させて頂きました。



ふくおか県民文化祭で委員長としてご挨拶させて頂きました

PROFILE 県議会議員 もりやまさ と 正人

昭和40年 6月21日/福岡市生まれ
 昭和59年 西南学院高等学校卒業
 平成元年 西南学院大学商学部商学科卒業
 平成元年 近畿日本ツーリスト(株)入社
 平成8年 衆議院議員秘書(国会内)
 平成16年 (株)九電ビジネスフロント入社
 平成19年 県議会議員初当選
 平成23年 県議会議員2期目当選
 平成27年 県議会議員3期目当選

県民生活・商工委員会委員長
 生涯健康安心社会調査特別委員会委員
 福岡県日米友好議員連盟副会長
 民進党県政クラブ県議団幹事長
 福岡県信用保証協会理事
 九州電力総連組織内議員
 西南学院高等学校同窓会評議員
 ホークスを応援する会理事
 福岡県青少年問題協議会委員
 青少年アンビシャス運動推進本部本部員

〒814-0104 福岡市城南区別府6-2-10

TEL 092-851-3679

FAX 092-851-3670

e-mail: macmac0621_1965@mail.goo.ne.jp



○9月定例会 会派代表質問

会派の代表質問では、下記の事案について知事並びに教育長に質問しました。

県政推進の基本姿勢として

- ①実効性ある「障がい者差別解消条例」の制定
- ②給付型奨学金制度の創設
- ③次期福岡県総合計画の策定と個別計画の見直し
- ④国の補助事業における交付基準の是正

視察を受けて

- ①北欧への直行便
- ②「ユネスコ世界遺産」登録を契機とする地域振興
- ③核廃棄物の最終処分

教育問題として

- ①正規教員の確保
- ②特別支援学校高等部の学級編制基準

福祉労働問題として

- ①発達障がい者の支援

◆本県が最も低いDランクにされている「国庫補助負担金の交付基準について」

Q 6月議会で保育所等整備交付金がDランクである事が明らかになり、県内で話題となりました。今議会でも国庫補助負担金の交付基準に疑義があるのは本県でどの程度存在するのか質問しました。

A 地域別に交付基準が設けられたものは23件あるが、その内交付基準に疑義があるのは7件(認定こども園、へき地診療所、救命救急センター、食肉衛生検査所、児童養護施設、隣保館、救護施設等の整備に係るもの)である。今後は関係省庁への提言・要望等を行い、交付基準が見直される様に要請を行う。

◆特別支援学校新設へ

Q 知的障害のある児童生徒が通う特別支援学校の設置が今必要です。知的障害がある児童生徒数は今後10年で3割増加と推計され、特に福岡地区では6割以上の増加する事が予想されます。今後の県の対応について障害者差別解消条例と共に問いました。

A 教育長から11月に整備方針を策定し、糸島市や福岡市東部近郊を想定し、特別支援学校を3校新設する計画である事が明らかになりました。また、知事からは公的機関に障害者への配慮を義務付けた障害者差別解消法の4月施行を受け、実効性のある条例制定の早期制定に向けて取り組むと答弁がありました。

◆「観光王国 九州とともに輝く福岡県観光振興条例」を議員提案で成立

観光振興条例は九州各県と一体で誘客を強化し、地域経済の活性化につなげることを主題としています。福岡県や市町村、観光業者県民の役割と明記し県の枠を広域で活動する一般社団法人や一般財団法人に対して知事が経費負担できる様に設定しました。

ハワイ州教育訪問団

9月15日、福岡県・ハワイ州姉妹提携35周年記念事業の一環として、ハワイ州知事夫人を団長とするハワイ州教育訪問団が県議会を訪問しました。私も福岡県日米友好議員連盟の副会長として対談しました。

福岡県とハワイ州にとって初めてとなる海外との姉妹提携を締結し、今年は35周年の節目の年です。これまで教育、文化などさまざまな分野で交流を深めてきました。今後も一人でも多くの両県州民が、お互いの地域を身近に感じていただき、両県州の有効関係が更に深まっていくよう力を注いで参る所存です。

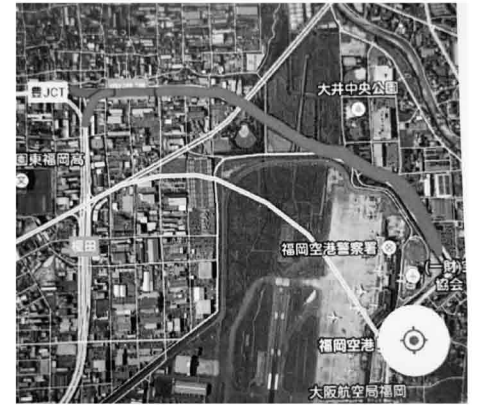


○福岡空港整備計画について ~九州の空の玄関が大きく変わっています~

福岡市の中心に位置する福岡空港はとても便利な空港です。しかし、滑走路は一本しかなく混雑時は発着に遅れが出る事もあります。国は過密状態を解消するために、滑走路の増設と現在あるターミナルを50m程東側にセットバック移動して国内線誘導路の複線化を計画しています。

新滑走路が増設される2025年は発着可能回数が4万回以上増え最大21万1千回となる予定です。また新空港ビルは地上5階地下2階で地下鉄改札口からエスカレーターで直結します。

- 2009年(平成21年) 県知事福岡空港の滑走路増設を表明
 - 2012年(平成24年) 国内線ターミナル一体の再整備に着手
 - 2014年(平成26年) 立体駐車場開設
 - 2019年(平成31年) 福岡空港国内線新ターミナル完成(地下鉄駅から直結)
 - 〃 航空機誘導路の複線化
 - 〃 福岡空港「民営化」スタート
 - 2025年(平成37年) 福岡空港増設滑走路供用開始
 - 2027年(平成39年) 福岡空港関連自動車専用道路
- ※上記の日程は工事の進捗状況により変更が発生する事があります。



福岡都市高速空港まで延伸 ~こんな計画も進んでいます!~

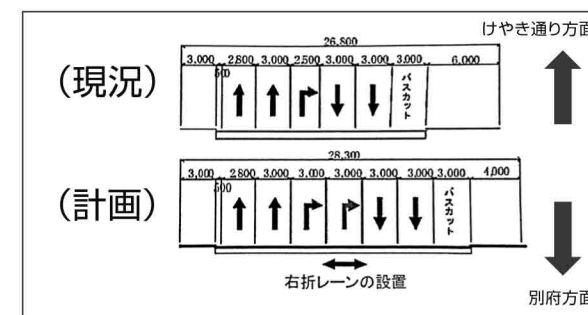
現在福岡高速道路から国際線ターミナルへのアクセスは「空港通」ランプを利用して一般道を走行する事に加え、渋滞箇所の「空港口」交差点を通過しなければなりません。また、福岡市南部地域等からは「空港通り」ランプを利用出来ないため「金の隈」ランプ等を利用して5km程度一般道を走行しなくてはならないなどの課題があります。都市高速を延伸することで、利便性が高まる事が期待されます。

国道202号 六本松交差点改良事業

これまで国道202号線と市道博多駅草香江線の交差点の上り線で右折車線の渋滞やバスカットが無い事で無理な車線変更に伴う追突事故などが発生しています。

現在、六本松交差点上り線の右折レーン2車線化、六本松駅前交差点下り線の左折レーンの設置及び上り線のバスカット設置する事業を実施しています。今年度も設計や用地買収など国の直轄事業として改良が進んでいます。

尚、中村大学前交差点改良等設計費が今年度初めて計上されました。城南区だけではなく市内中部から西部に向けての交通渋滞対策が進んでいます。



農福連携を学ぶ

(学生インターン生と活動を共に)

障害者福祉施設「さんすまいる伊都&いとキッズ」を学生インターン生と共に訪問しました。「さんすまいる伊都&いとキッズ」は主に、生活介護サービス、児童発達支援及び放課後デイサービス、就労移行支援及び継続支援B型サービス、ショートステイサービスに取り組んでおられます。特に、障がい者の自立に向け、無農薬栽培の農業で米や野菜を栽培しています。

訪問当日も池田浩行理事長から説明を受け、さつまいもや生姜の収穫作業等を子供達と一緒に行いました。又お昼は「農家ご飯」を地元の農業従事者の方と意見交換を行いながら頂きました。農業と福祉の連携とその可能性等を学びました。

